

身近なプラスチック部品から、人工衛星まで CFRPなど最先端素材を 活かしきる技術力

三協製作所

三協製作所(横浜市都筑区池辺町、森本鉄身社長、045・934・6970、<http://www.sankyo-ss.co.jp/>)は、業歴40年を数え、プラスチックの他、ガラス繊維強化複合材(GFRP)、非鉄金属、セラミック切削材など幅広い複合材を素材とした各種製品の解析・設計・加工組立を手がけてきた。中空ロボットハンド構造をはじめ複数の製造特許を取得するなど、独自の加工技術と設計力をもとに、新素材・複合材料の最適応用開発を通じて独自の提案を行い、お客様のニーズに迅速に対応している。

特に、注目の最先端複合材料であるカーボンFRP(CFRP)については、数多くの実績がある。CFRPとは、炭素繊維で強化されたプラスチックのことを指し、鉄と比較して1/5の質量、2倍の剛性、1/10の熱膨張率を持ち、強度も鉄と同等である。金属と違い、X線や電波を透過しやすい点も特

長だ。軽量・高剛性なCFRPの技術を活かした製品は、宇宙航空研究開発機構(JAXA)の人工衛星構造体のような先進性の高いものからX線CT・車椅

子・義足のような医療機器、ギア、バネ・ボルトといった慣用的な産業用部品、スポーツ・レジャーなど身近な生活用品まで、大変多岐にわたっている。

広範な取扱い製品に対応するため、成形から機械加工、組立まで行うことができる一貫工場を千葉県袖ヶ浦市に所有している。ISO9001認証も平成12年に取得、業界でもトップクラスの技術力は折り紙つきだ。

本年は、東日本大震災の津波に耐えた陸前高田市の「奇跡の一本松」のレプリカにも、同社の技術・材料が提供された。同社の経営理念「積極的に新技術に挑戦し、広く社会に貢献する」を実践した活動を続けている。

「これからも、常に高い顧客満足度をめざし、品質向上のための継続的な改善を怠らず、社員とともに一意専心で取組んでいきたい」と森本社長は情熱を傾ける。



レーダーなどを雨雪から守るGFRP製カバー